

市民と市長の対話集会

第143回

タウンミーティング記録集



令和3年8月7日（土曜日）

場所 サンパルネ

時間 10:00～正午

東村山市

○開催内容

令和3年8月7日（土）午前10時、サンパルネのコンベンションホールで、「タウンミーティング」を開催いたしました。8名の方にご参加いただき、ご意見を伺いました。

○会場アンケート結果（住所地・年齢・性別について）

アンケート用紙は受付で配付し、7枚を回収しました。

・アンケート回答者の住所地

廻田町	1人
多摩湖町	0人
諏訪町	2人
野口町	4人
その他市内	0人
市外	0人
合計	7人

・年齢

20代以下	0人
30代	0人
40代	1人
50代	3人
60代	2人
70代	1人
80代以上	0人
未回答	0人
合計	7人

・性別

男性	4人
女性	3人
合計	7人

○次回開催情報

●対象 小・中学生の保護者

●今回は一般の参加者の募集はありません。ご了承ください。

問い合わせ先：東村山市 市民部市民協働課 電話/(393)5111 FAX/(393)6846

Eメール：kyodo@m01.city.higashimurayama.tokyo.jp

開催日	会場	時間
令和3年11月19日（金曜日）	マルチメディアホール	10：00～正午

※：今後の感染状況などによっては変更・中止になる場合があります。

タウンミーティング記録（概要）

会場での発言内容は発言要旨を記録し、個人名は伏せさせていただきました。

【市長あいさつ】

皆さんおはようございます。本日は大変暑い中、またなにかとお忙しいところ、そしてなによりもコロナ感染が拡大をしております中にも関わらず、このように多くの市民の皆さまにご参加いただき、タウンミーティングが開催できますこと、主催者として心から感謝を申し上げます。

コロナの感染状況について、昨日も都内では 4000 人を超える新規感染者がありまして、東村山市でも昨日時点の累計で 1198 人という状況になっております。

6 月まではだいたい週に 15 から 16 人ぐらいの新規感染者数であったのが、7 月に入りましてそれが倍の 30 人、さらに倍の 60 人になり今はもう 1 週間で 100 人を超えるという倍々ゲームのようなスピードで、東村山市民の方の新規感染も広がっているという状況でございます。

私共は保健所からいただく情報以上のことがわからないので、どのようなルートで感染をされているのかということについては、つぶさに承知しておりません。また現在、感染者数が急拡大していることから、保健所でも全てのケースについていわゆる疫学的な調査がしきれないというのが現状のようでございます。ただ私どもが伺っているところでは、市内でもご家族での感染がかなり出ておりまして、乳幼児や児童生徒、小中学生の感染もここ 1・2 週間の間に複数確認がされているところでございます。

なんとか感染を食い止めるべく、市民の皆さんにはマスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、あるいは普段一緒に食事を召し上がっているご家族以外の方との会食等については、ぜひ自粛をしていただくようお願いをさせていただいております。一方でコロナ対策の切り札と言われておりますワクチン接種の状況でございますが、先月いっばいで接種を希望されている 65 歳以上の高齢者の方については、ほぼ終了をいたしております。本市の場合は 65 歳以上の方の約 8 割を超える方がすでに接種をされておりまして、先月の初旬から、基礎疾患のある方や介護施設、障がい者施設、あるいは保育園、幼稚園等の保育士、幼稚園教諭といった、いわゆるエッセンシャルワーカーの方の優先接種を開始いたしておりまして、これらの方についてもほぼ今月中には 2 回接種が終了するような状況にあります。

7 月 20 日以降、いわゆる一般の基礎疾患のない 64 歳以下の方の予約を受け付けさせていただいて、現在順次接種を進めさせていただいておりますが、これまで国から供給をいただいていたワクチンについて週換算にしますと、だいたい 8 箱ないし 9 箱、接種回数にすると 9000 回から 1 万回分ぐらいの供給を受けてきましたが、これは本市のみならず全国的な傾向ですけれども、7 月の後半ぐらいから、週換算するとだいたい 5 箱から 6 箱程度ということで、ワクチンの供給が削減をされている状況があります。7 月の後半以降につきましては、12 歳以上 64 歳未満の一般の方の接種が始まりましたが、現状ではなかなか予約が取りづらいという状況が続いておりまして、5 日の日に 2 回目の集団接種の予約の受付を行わせていただきましたが、わずか 5 分で埋まってしまい、多くの市民の皆さんには大変なご迷

惑をおかけしているところでございます。今月の後半には、東京都から 50 歳代の方についての接種を加速化するようにということで、数箱ですけれども、ワクチンの供給をいただける見通しがたっておりますのと、あと最新のクールでは予定していたよりも若干、国からの供給も多めにいただいておりますので、それらを調整してまた来週以降、予約の受付等について、市民の皆さんにお知らせをしてみたいと考えております。

今のところ次の予約の受付については 9 月 7 日の火曜日を予定しております、9 月以降は予定通り週に 6 箱程度いただければ、だいたい新規での受付を、週換算ですと 3000 回接種分ぐらいは開放できるものと考えておりますので、9 月以降はある程度ご期待に沿えるのではないかと考えております。引き続き国には自治体が必要とするワクチンの供給をしっかりとやっていただくようお願いしながら、市としましては、地元の医師会や市内の医療機関等と連携をしながら、希望される市民の皆さんができるだけ早く円滑に接種ができるように、鋭意努力をしてみたいと考えておりますので、ぜひご理解をお願いいたします。まだワクチンの接種を受けられてない方につきましては、冒頭申し上げたように感染が広がっておりますので、十分お気をつけいただきたいと思ひますし、ワクチン接種 2 回終わられた方につきましても、今回のデルタ株は接種を受けても、かかる場合もあったりすることですので、やはりマスクの着用等、基本的な感染対策は継続いただきますようお願いを申し上げます。

これまで緊急事態宣言が出ているときには、タウンミーティングはお休みをさせていただいており、今年に入ってもうずっとできない月が続いておりましたが、先月からタウンミーティングを再開させていただいております。

先月はオンラインでの開催を行ったところでございますが、なかなか毎回オンラインということになると、そのような環境や機器を持ってない方が参加できませんので、今回緊急事態宣言下でありましたけれども、久しぶりに対面形式でのタウンミーティングを開催させていただきました。少ない人数でございますので、複数回ご意見いただけるかと思ひますので、今日はじっくりと皆さんと意見交換をさせていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひ申し上げて私からの冒頭のご挨拶に代えさせていただきたいと思ひます。



【会場でのご意見】

～ まちの価値の向上 ～ について

◆シチズングラウンド付近の前川の溢水対策について① (野口町 U さん)

毎年台風やゲリラ豪雨等があると、私の家の目の前の前川がよく氾濫します。その度に床上浸水や床下浸水が、ここ5、6年で2年に1回ぐらい発生しています。前川には水位カメラが3ヶ所、諏訪町と野口町と廻田町に付けていただいておりますが、私は都内に勤務していますが、昼間でも前川の状況が分かるのですごく安心できるものになっており、本当にありがたいと思います。

一方で、短期的な側面で見ますと、雨が降っていることに対する施策というのが全くされていないかなと思っております。これは議員さんが家の近くに来られた時にお話をさせていただいておりますけれども、例えば川のところに塀を建てるとか、雨が降りそうなときに臨時の塀を立てるとかできないでしょうか。また、雨水を川に流しているところに川の水が逆流してくるところもあります。ですから逆流しない何か仕組みがあったらそれを対策としてやっていただけないかなというふうにお話をしています。明日・明後日と台風が来そうですが、心が動揺しており、おちおち寝ていられないというところもありますので、早急に何らかの施策を取っていただきたいというのが要望でございます。

また長期的な側面で見ると、いろいろな情報を役所や、議員さんからいただいております。シチズングラウンドのところの土地を少し買い取って、そこを何かに利用していくという方針だそうですが、まだ調査の段階ということでもしかしたら、それがうまくいかないということもあるというふうにもお聞きしています。ですので長期的、短期的という側面で、今後の市長のお考えをお聞かせいただけませんかでしょうか。

◎ 市長回答 ◎

ご指摘の通り、昨年は幸いなことに東京を直撃する台風がなかったのですが、今年は台風もかなりできてきておりますので、大きな被害が出なければいいのと、そのように私も日々感じておまして、直近の台風10号の進路はどうなるのか、雨量がどの程度になるのか非常に気になっているところでございます。

まずは中長期的な観点のことを申し上げたいと思います。前川については、河川法に基づいた河川ではなく、いわゆる用水路の扱いになっております。前川は最終的には柳瀬川に注ぐことで言いますと、柳瀬川流域の用水路の扱いになっております。市としては、できればこれを準用河川に格上げをさせていただいて、これまで都内での河川管理で言われていた時間当たり50ミリの雨量までは、なんとか浸水被害が出ないような河川整備をしたいというふうに考えているところでございます。

河川管理というのは下手の方から整備をしませんと上手だけやっても、逆に下手の方で被害が拡大することがありますので下手の方から順次整備をするというのが、基本的な考え方

になります。

この間、市としましては東京都に対して柳瀬川の対策の強化について、長年にわたってお願いをしてきた経過がございますが、今年の4月に東京都において柳瀬川流域を対策強化流域に追加指定していただきました。我々にとっては大変な朗報と感じているところで、流域の対象区域としては清瀬市、東久留米市、東村山市そして東大和市ということで当然、前川もその中に含まれると考えております。この対策強化流域に指定されますと、基本的には東京都が管理している柳瀬川については時間当たり65ミリの降雨に対応する整備を今後、十数年かけて行っていくことになろうかと思っております。

市が管理をしている前川についても、それに合わせて今後対応が求められると承知をいたしております。

データできっちり数値を出したことはありませんが、前川の現状ですと、1時間に20ミリの雨量が降った場合、おそらく冠水してしまうのではないかと承知しています。これを50ミリあるいは65ミリまでにするとすると、川幅をかなり広げる必要がありますが、前川の両サイドについては廻田町、野口町、諏訪町に関しても、お宅がギリギリのところまで建っておりますので、川の幅を広げるということは、基本的には無理だろうというふうに感じておりますので、そうしますと、河川を掘り下げて、流量を確保するというのを今後考えていく必要があります。

あわせて、当然流しっぱなしではなりませんので、貯留をするための調整池、あるいは調整地というものをいくつか設けていく必要があるというふうを考えておまして、その一つとして先ほどお話をいただいたシチズングラウンドについて、ちょうどシチズンの健保組合さんが保有してるものなんですが、「防災用に市がお使いになるのであれば、売却する用意がありますよ」というお話をいただきまして、この間いろいろな角度から市としても調査をし、シチズン健保組合と協議を重ねてきたところでございます。

現時点では売買契約を具体的に取り結んでいるわけではありませんが、市としては本年度、用地測量等の費用も計上してシチズングラウンド購入に向けて、実際に動きをしている状況になります。

話がうまく整えば、令和5年度ぐらいを目途にシチズングラウンドを購入し、その後、通常は今あるような野球等のスポーツ施設として活用しつつ、台風や集中豪雨等の場合については、いわゆる掘割形式にして掘り下げて、そこに前川の水が流れこむような形にするのか、あるいは地下をくり抜いてそこに貯留するような設えにするのか、そこまではまだ明確に決まっておりますが、当然お金のこともあるので、今後それらいろいろな工法や費用面、形状による貯水量など様々な角度からシミュレーションを行って、最終的な整備計画を立てていきたいと考えております。

先ほど申し上げたように前川の河川断面を広げていくということについては、当然柳瀬川との連動の問題があることから、いずれにしても柳瀬川の整備とあわせて市の方も前川の護岸を掘り下げて整備していくということを、10数年、下手をすると20年ぐらい時間をかけて行うような工事になろうかと思っております。現状では、中長期的には、先ほど来申し上げているように、市としては最低でも50ミリ対応できるような河川整備をこれから前川については行っていく計画で進んでいるということでもあります。

それまでの間はどうするのかということにつきましては、短期的に取れる手立てとしては、

毎年所々で行っておりますが、まず河川を適正に管理するという事で、しゅんせつを定期的に行うことで、流量をきちんと確保していくということが一つです。それから護岸についても豪雨でかなりあちらこちら壊れてしまっていますので、前川のシチズングラウンドのあたりも、昨年度行わせていただきましたが、整備をさせていただきたいと考えております。

その護岸側の方を嵩上げしてほしいというご要望かと受けとめさせていただきましたが、先ほど来申し上げているように、市としては、護岸を嵩上げするという計画は現状では持っておりません。というのも、単純に護岸だけを上げてしまうと、水圧の問題等でそれが本当に対応しきれぬのかどうなのかという技術的なこともありますし、所々にある橋桁については嵩上げするわけにもいきませんので、橋を超える量の水が出てきますと、橋からそれぞれの住宅地内の方に水が流れ込む結果となってしまうので、現状では大変恐縮ですが、土嚢等の原始的な対応でございますけれども、増水等した場合にはそれで対応させていただく、あるいは市としてもできるだけそういう対応をするということで何とかしのいでいただくようにしていくしかないのではないかと考えております。

もうちょっと下手の諏訪町の徳蔵寺橋も、よく水が橋を超えてしまって一帯がかなり浸水被害をするエリアがございます。ここは急に川幅が狭くなっていて、いわゆるそこで水の流れが悪くなって溢れてしまうということがあるので、川の水を一部放流するようなバイパスを車道の下に埋設する計画で設計をさせていただいておりますので、多少は効果が出るものというふうに期待しております。

抜本的な対策を講じる前に、前川で氾濫が起きているエリアについて、取りうる策として考えられるのは、今申し上げたように道路上に一部分流して、川の水の溢れる量を少し減らすというような対策が一つの策として考えられるかなというふうに思います。

今ご指摘あったシチズングラウンドの周辺となると、シチズングラウンドの前の道路の幅が非常に狭いので、そういった対応がとれるかどうか、そこは今日いただいたご意見を踏まえて、長期的、中長期的な対策までの間として、何らかの短期的な対策として、そういったことができるかどうか検討をさせていただきたいなと思います。

◆シチズングラウンド付近の前川の溢水対策について② (野口町 Uさん)

短期的になんですけれども、北側の家側の方に下駄を履かすとか、何か置くということではなくて、そこにただガチャガチャと開閉できる扉のような塀みたいな感じのものを置いていただきたいと思います。確かに土嚢で回避するというのもありますが、ここは高齢者が多い地域で、土嚢だとかなり重たいです。皆さん雨が降ると結構やっておられるのですが、雨が降ってる中お年寄りが風邪をひいてしまうことも考えられます。だからそこに例えば扉のようなものでいいのですが、何か簡単に簡易的なものができればまた違ってくるのかなというふうに思います。また、雨水が道路から川に流れるところのパイプに逆流しないような仕組みについても検討していただきたいと思います。

あと、諏訪町では道路の下に流水をするというお話でしたが、例えば道路そのものを若干50センチでも下げる事によって水の量というのは、川幅を広げる効果もありますのでそういうことを検討してはいかがかなというふうに思いました。

◎ 市長回答 ◎

塀のようなものとは海岸や港とかにある、津波が来たときに防潮させるための扉式のようなものですか。そういったのが実現可能なのかどうなのか、今私も初めて聞かせていただいたので、即答は控えさせていただいて、検討はさせていただきたいというふうに思います。

それから逆流しない仕組みというのはこれがやはり難しく、基本的には水は高い方から低い方に流れて一杯になってしまうと結局また溢れて出てしまいます。逆流しない仕組みというのは、どういう方法があるかわかりませんが、いただいたご意見踏まえて検討したいなと思います。

私どもとしてはこれはもうかなり長年にわたってですけれども、宅内に降った雨水については少なくとも宅内で処理をしていただきたい、道路に流さないでくださいということをお願いをしており、宅内に浸透枡を設置する場合には、前川流域では補助金の補助率もかなりかさ上げして今年の4月からはさらに額も増やすなどの取り組みをさせていただいています。雨水については、まずはご自宅の敷地の中で治めていただかないと、前川の場合、特に野口町の場合は2丁目の方から、また鷹の道の方から水が流れてきてしまって、ちょうどシチズングラウンドのあたりというのは、両方から来るような感じになっていますので、少しでも宅地に降った雨は宅地内で飲み込んでもらって、道路上に水を出さないようにしていただくということをより強化していくということがやはり必要なのではないかと考えています。引き続き前川流域の少し高めのところにお住まいになっていらっしゃる方については、ぜひ宅地内で雨水を地下浸透していただくようにこれからも取り組んでいきたいなと思います。

◎ 道路河川課より ◎

河川整備には長期に亘る時間がかかります。このことから市では、短期的な対策としては、河床に堆積した土砂を定期的にしゅんせつし、水が流れやすくする取り組みを進めており、令和2年度は、野口町地内の第二前川橋上流や弁天橋下流などの区間で、およそ100立方メートルの土砂の搬出を行ったほか、令和3年度も廻田町地内の中橋から野口町の第三前川橋の区間を中心に、土砂の堆積状況を見ながらの作業を予定しております。

中・長期的な対策としては、徳蔵寺橋付近における前川沿いの側道（市道）を利用したバイパス工事に向けて、占用位置を確保するため、電柱等の移設工事を進めているほか、準用河川化に向けた検討作業も行っており、令和3年度は、前川の現況測量、流量計を用いた流量計測を予定しております。

この他、令和2年度からは、台風などの大雨の際に、沿川の居住者が防災・避難の判断に役立てられるよう、第二前川橋付近や徳蔵寺橋付近など3箇所に水位計を設置し、市のホームページで随時閲覧可能とした、ソフト面での対策も行っております。

◎ 下水道課より ◎

市では、雨水流出を抑制し、浸水被害の防止を図るため、宅内への雨水貯留槽や浸透ます等の雨水貯留・浸透施設の設置に対する助成制度を設けています。

申請者のご負担の軽減を図るため、令和3年4月に、助成制度を一部改正し、助成金額の上限額の改定や雨水貯留槽の設置対象エリアの拡大等を行っておりますので、ご活用いただけ

ればと思います。

雨水貯留・浸透施設等設置助成制度の詳細については、下水道課へお問い合わせください。

◆シチズングラウンド付近の前川の溢水対策について③ (野口町 S さん)

前川について、市長のお話をお伺いして、うまくいけば令和5年にシチズングラウンドを購入予定で、前川の護岸整備については20年後というお話でしたが、正直に言って、今現在、困っているのです。

川沿いのお宅の現状を見るととても胸も痛く、私も数年前に車が冠水してダメになってしまい、本当に被害が甚大です。

シチズングラウンド前の道ですが、交通量がほとんどなく、土・日・祝日になるとバーベキューをやりに来る方が利用するぐらいで、歩行者もほとんどいないことから、あの通りをそのままにしておくのは、そんなに必要なのかなと思います。

市の道路ですから、それはそれで必要なのかもしれませんが、5センチ10センチ下げてください、水の流れを他に動かしてもらうような方法を数年前に議員の方にお話しさせていただきました。シチズングラウンドの前の細い道は必要ないのではないかとお話しさせていただきます。

先ほどお話しされました個人のお宅に設置する枡というのは私の家にもあります。また、近くに大きい駐車場があるのですが、大きい駐車場から水が回流してきます。先ほど道に降った水をどうすることもできなくておっしゃっていましたが、そこをどうにかしていただかないと、私達の被害は止まりません。そのためにもシチズングラウンドのそばの道を何とか活用いただき、20年後の未来につなげていただきたいと思います。

◎ 市長回答 ◎

20年後ということをお願いしたのは、50ミリ、あるいは65ミリ対応をして河川断面をかなり広げるということを含めてやるとおそらく最短でもそれぐらい時間は必要になるだろうということをお願いしたのであって、シチズングラウンドの方だけで20年かかるというふうには私どもも思っておりません。シチズングラウンドに調整池機能が付加されるだけでもかなり違ってくるのではないかと思います。ただ具体的にシチズングラウンドで何立米貯留ができるのかについて計算しているわけではありませんので、具体的にシチズングラウンドに何立米飲み込める貯留施設を作ると、雨がこれぐらい降っても、皆さんのお宅の方まで浸水被害が出ないようになりますということは、今の段階では明確には申し上げられないということで、ご理解いただければと思います。

道路を下げてどこかにずっと溜まっているわけではなく、どこかに流れてしまうということがありますので、道路そのものを使うというよりは道路の下に何らかの貯留できる物を埋設する方が、やや効果はでるのかなと思った次第でございますので、先ほどいただいたご提案も含めて考える必要があると思います。

確かに前川はこの箇所も全て水が溢れるということではなくて、いくつかポイントがありまして、諏訪町の徳蔵寺橋付近やシチズングラウンドの周辺というのは、我々としてもよく出水するということは承知していますので、そこに合わせて少しでも被害を減らすような

ことができる対応を今後も検討させていただきたいと思っておりますので、ぜひご理解をいただきたいと思っております。時間はかかっても、少しずつでもやっていかないと、結局なかなか前に進まないこととなります。柳瀬川の対策強化についても、市としても、本当に長い間東京都に要望を重ねてきて、ようやくここで追加していただけたと承知をいたしております。

都の歩みに合わせながら、また先ほど申し上げたように調査しながら、河川断面を広げるために、時間はかかっても着実に下手の方から掘り下げを行わせていただく、このように考えておりますので、ぜひご理解いただければと思います。

◆シチズングラウンド付近の前川の溢水対策について④ (野口町 H さん)

私の記憶だと、2009年ぐらいから集中豪雨やゲリラ豪雨によって、床下浸水した記憶があります。カップを着て外に出た時点でもう10センチぐらいありました。本当にそのぐらいの勢いで雨が降りますが、以前にこの土地に詳しい方に聞いたら、ここはすり鉢の底ようになっており、四方から雨が来てしまうとのことでした。川からも来るし、隣の道路の水もマンションの通路を越えて川のように流れてきます。その斜め前に駐車場がありますが、その水も来ます。土地がコンクリートではなく、土ですが水が来ます。

その度に思うのはマンションの入り口に土嚢を積みたい、駐車場のところにも土嚢を積みたいです。本当に隣の水は隣でどうかしてほしいと思っております。四方八方から水が来るので、自分たちの水は自分でどうかしてほしいと思っております。けどこのように言ってしまうと角が立ち、人としてどうかと思うので、私達は水を受け止めて、床下浸水・床上浸水になっているのです。

一昨年のすごい台風のときは、うちは老犬がいますが、前の日にERに入院させました。浸水被害によって犬の面倒をみきれないかもしれないので、ERに頼んで入院させてもらったぐらいです。市がすごく頑張ってくれているのはわかりますが、働いている方やペットがいる方、家にいなければならぬ高齢の方がいる方などの気持ちを想像していただきたいです。本当にトラウマのようです。

夜は豪雨が来ると聞くと眠れません。それで今、お話しを聞きまして、市がすごく頑張ってくださいしているのもわかるのですが、市にわかってももらえないとどうにもなりません。本当に我慢して住むか、どこかに引っ越すか、末端の声を本当に自分のことのように考えてくださらないと、私は市全体が疲弊していくのではないかと思います。昔の例えですけれども、お殿様まで今日はお声が届くなどと思って来たのですけれども、どうか自分のこととして考えていただきたいと思っております。

◎ 市長回答 ◎

お住まいになっていらっしゃる方の切実なお苦しみということについて、我々としてもそれを思いながら日々仕事をさせていただいております。先ほど来申し上げているように、行政ですので全体的な計画を立ててそれを着実に進めていくということが求められるということとはぜひご理解いただきたいと思っております。

実は柳瀬川自体もたびたび氾濫を起こしております。秋津町の秋水園の周辺では一昨年の台風では床上まで浸水されているお宅が出ています。そういう意味でいうと、やはり柳瀬

川流域全体を何とかしていかないと、この問題の抜本的な解決にはつながらないと考えております。

柳瀬川は、東京都と埼玉県の間を流れている川なので、河川管理者が場所によって東京都であったり埼玉県であったりということが起因して、柳瀬川の河川整備が進んでないということが大きなネックになっているところがありますので、それは引き続き東京都の方をお願いして進めていきたいと考えています。前川の流域については市としても現時点では50ミリまで対応できるように河川断面を広げることについて、今その検討作業をしているということで、ご承知おきをいただければと思います。

まずはシチズングラウンドを取得して、できるだけ早くあそこに一時的な貯留をできるようにしていくことが、短期的には一番、ご近所にお住まいの方に対しては効果が出るのではないかなと、そのように今判断をしているところでございますので、そこに向けて、極力頑張っていきたいと思っております。

あと近隣関係で、実は以前にもお近くのマンションにお住まいの方からもタウンミーティングで、道路から若干下がった居室がある部屋があるそうで、入口を含めてたびたび浸水しているという話を聞いております。あの一帯がどうしても地形上水が溜まりやすいのかなというふうに思いますが、今伺った話ですと逆にマンション側から水が流れ、西側の駐車場の方からも流れてくるということなので、やはり所有されている方がお互い、できるだけ自分のところで雨水を処理していただくように、我々としても啓発をしていきたいなと考えております。いずれにしても繰り返しになりますけれども、何とか早期にシチズングラウンドを取得して、あちらで一時的な貯留ができるように最大限努力をしていきたいと思っておりますので、ぜひご理解いただければと思います。

また、かなりの雨が降った場合については、事前に土嚢ステーションから土嚢をお取り寄せいただくか、場合によっては市の防災防犯課、あるいは消防署の方に連絡をいただければいいのかなと思っております。

◆シチズングラウンドに子どもの遊び場やスーパーを誘致してほしい

(野口町 S さん)

シチズングラウンドの件に関してですが、整備をしていただく上でお願いしたいことがあります。

私は東村山市に引っ越してきて27~28年になり、子どもたちは北山小学校、四中で育ちました。当時は北山児童館の隣に少し空き地があって、子供たちもちょっとした玉遊びができるようなスペースがあったのでとてもありがたかったのですが、その土地が宅地になって、遊ぶところがなくなってしまいました。

子どもたちが大きくなっていくうちに、習い事などで忙しくなるとあまりそういう遊び場は必要なくなってきてはいますが、この27~28年の間に子供たちが遊んでいる姿を見なくなりました。どこで遊んでいるのか、子供たちが遊んでいる声も聞こえた記憶がないなと感じます。シチズングラウンドが取得できるのであれば、やはりのびのびと芝生の上で遊べ、市民が自由に使えるような広場があると、とても魅力的であると思っております。子育て

てがすごくしやすい東村山市であってほしいと思います。

また、野口町は買い物がすごくしづらくて、野口町のスーパーが無くなってしまっても何年も経ちますが、結局駅前のスーパーに行くしかありません。この炎天下にちょっと買い物に行きたいと思っても結構しんどいです。シチズングラウンドは横長なので、どこを使うとかそういうのは全然私はわかりませんが、ちょっと簡単に買い物に行けるようなスーパーを誘致していただくとか、そういうのができたら駅で買い物をするだけではなくて、野口町の人や廻田町の人や多摩湖町の人にも助かるかなと思います。買い物難民すぎるかなと思っているので、買い物のしやすいところを誘致していただきたいです。

◎ 市長回答 ◎

グラウンドの貯留施設だけでなく、子供たちの遊び場。あるいは、できたらスーパーもというご要望いただきました。上物についても、今のところどういう形状の公園にするのかということについては具体的に決まっているわけではありませんが、現状、こちらはかなり整備された野球場のようなグラウンドもあり、テニスコートもあったり、バーベキューができる設備もあります。ただ私どもの見た限りではクラブハウスはかなり古い建物なので、あれをそのまま使うことは難しいのではないかと考えております。

また、野口町は実は集会施設がなく集会施設を作る場所の確保ができておりませんので、今後シチズングラウンドを取得できれば、そういった現状のスポーツ施設等はうまく活かしながら、何らかの集会機能あるいはコミュニティ機能を作っていければと思っています。子供の公園について言うと、あまり使われていないのですが、東側に松林庵児童遊園というのがありますが、ただそこがお墓の脇で子供たちから使いづらいという声もいただいているので、今後、そこは少し考えて、子供たちもお使いいただけるような遊具を設置する場合には、どこにどういうふうに置くかとか、それらも含めて検討していく必要があるかなとは思っています。

お金はかかりますが、そういうことと言うと、貯留施設は掘割ではなくて本当は地下に埋設できるような形がとれると、今の施設もだいぶ活かすことができます。結局掘割にしてしまうと大きなグラウンドを全部掘って、そこに雨が降ると水が溜まるような状況になるので、年間何回も水が溜まっているとグラウンドとしても遊び場としても使いづらくなってしまいます。そこは今後取得後に、具体的にどう整備をしていくのか、当然周辺の野口町の方々のご意見もいただきながら、整備を進めさせていただきたいと考えています。

◆徳蔵寺橋付近の前川の溢水対策について

(諏訪町 S さん)

数年前に前川が氾濫して徳蔵寺のところで床下浸水が2件ほどあった日ですが、私は自治会の自主防災隊の一員として、当日、長靴を履いてあのあたりを歩いてみました。

そのとき感じた話で言いますと、必ずしも徳蔵寺橋のところばかりの問題ではありませんでした。徳蔵寺橋や小川橋の辺りは護岸の方にもブロックが積んであって、相当な水が流れないと、川から溢れ出ません。

徳蔵寺橋のところは、ブロックの下の方にも穴が開いていますから、そこから逆に川の

水が出てくることがあります。当日どんな流れをしていたかということをお話ししますと、実際は徳蔵寺橋のところ溢れたというよりも、もう少し上流の方の小瀬川橋の両脇から流れてうどん屋さんの方へ流れる水と反対側へ流れる水がありました。ここからずっと道が川のようになっていました。八国山団地や北山団地の道路はずっと川のようになって、低い方へ、低い方へと流れていました。道路の水はそんなに水かさはありませんでしたが、それなりの勾配がありますからどんどん徳蔵寺の団地の方に水が流れて行って、そこに水が行き着いてしまっていました。徳蔵寺橋のブロックのところから出てくる水もありますから、それが捌けなくていっぱい溜まってしまったということで、徳蔵寺橋のところの対策も必要ですが、もっと上流から溢れて、道が川のようになって下流に流れているということもぜひ今日お話ししておきたいと思います。

また、小瀬川橋のところについて、昨年治水対策として泥を取り除いていただいて、川床の泥を取り除くと結構深くなっていたのですが、そこに業者の方が、今まであった石ころを深みにはめていました。結局水深としては、以前と同じで、ただ泥を撤去しただけという工事をされていました。

なぜかと業者の方に聞いたら、そういう指示だからということで、水深は深くならないように大きな石を詰めていました。

これは、水深を深くしたら、周りの護岸の方が壊れてしまうかもしれないからそのようにしたのでしょうけれども、そうしますとあそこに水が来たときに一旦溜まってしまい、水がはけないのはなぜかという、流れにも問題があるのではないのでしょうか。

川の少し下流の方を見ていきますと、水の高さや流れが一定になるように、護岸にぶつからないように保つ堰みたいなのがありますが、あそこをもうちょっと下げてもらって流れを良くすれば、同じ断面積で水量も増えるのではないかと思いますので、少し川の構造を、水の流れをよくするような形にして、ぜひ小瀬川橋の両側からも漏れないようにすれば、だいぶ被害も減ると思いますので、ご検討よろしくお願いします。

◎ 市長回答 ◎

諏訪町も何ヶ所か溢水している箇所がありますが、今までの家屋への浸水被害の状況などをみますと、徳蔵寺橋周辺について水がかなり出るようになってきております。また、このあたりは府中街道などからも水が流れてきており、川幅が狭くなっておりますので、川の水を一部放流するようなバイパスを車道の下に埋設する対策を講じていこうというふうに、今検討しているところであります。

全体的なことを申し上げるとやはり、河川全体を掘り下げて河川断面、流量を増やしていないと駄目なのはご指摘の通りです。将来的にはそのように進めていきたいと考えておりますが、下手のことも考えて対応しなければならないので、一時的に所々河川を掘り下げることはいたしておりません。あくまでも堆積した泥をしゅんせつするというレベルでやっているということでご理解いただければというふうに思います。

ただ河床の形状によって流れが良くないのではないかとご指摘だと思うので、そこは後ほど詳しく教えていただいて、現場確認しながら対応を考えたいと思います。

◎ 道路河川課より ◎

徳蔵寺橋右岸の雨水吐きからの雨水の影響により、徳蔵寺橋の上流側では水位が上がり溢

水が頻発しますが、徳蔵寺橋の下流側では河川断面が十分あるために溢水はほぼ発生しておりません。徳蔵寺橋下流側のブロック塀下端に穴が開いているのは、徳蔵寺橋の上流側で溢水した水が道路上を川のように流れるため、徳蔵寺橋の下流側で水位が下がった前川に水を戻すために穴をあけたものとなります。

小瀬川橋のしゅんせつ工事では一定の河床勾配が取れるように配慮して行う必要があります、部分的に河床を掘り下げてしまうと、水の流れが止まってしまうためにかえって土砂が溜まりやすくなり、これによって溢水が生じやすくなります。

◆「がんばろう東村山！ 最大 20%戻ってくるキャンペーン」に

PayPay を選んだ理由

(萩山町 T さん)

「がんばろう東村山！最大 20%戻ってくるキャンペーン」について、色々な Pay があると思いますが、何で PayPay を選んだのですか。

それと、仲間がスマートフォンなどでやろうとしてもなかなかそれができない。格差がものすごくついてくるのですが、市の方でも勉強会みたいなものやってくれませんかでしょうか。

ネット社会になってきて、スマートフォンのようにボタンもないようなものを操作するのは大変です。スマートフォンを使うのであれば、市の方でも少し考えてほしいと思います。

◎ 市長回答 ◎

6月から8月にかけて行っている市内消費喚起策について、PayPay を活用して市内の中小小売店舗等でお買い物をした場合については、20%還元をするということで、できるだけ市内の小さなお店で買い物をしていただいて、コロナ禍で大変厳しい状況にあるところを支援いただきたいということでお願いをしております。

周辺市の東大和市でも PayPay であちらは 30%でやっておられるのですが、だいたい周辺でスマートフォンのこうした決済サービスを活用した消費喚起策を行っているところは、ほとんど PayPay でやられています。

それはなぜかということ、こうしたスマホ決済サービスを使えるお店について市としても調査をしましたが、市内で使えるのは圧倒的に PayPay が多かったためでございます。その他のいろいろな「OOPay」というのはありますが、今のところ、市内あるいは周辺市もそのようですが、圧倒的に PayPay のシェアが多いということで、新たにやる場合については、PayPay を活用するのが一番選択しやすいということで行っております。

また、なぜ商品券ではないのかという議論も一方でございました。市でも、これまで何度か市内消費を喚起するために、プレミアム商品券事業を商工会と協力して行ってきた経過がありますが、商品券事業は非常に事務コストがかかります。商品券そのものを印刷したり、使えるお店を呼び掛けしたり、換金するための様々な金融機関との連携等で、市のこれまで行ったプレミアム商品券事業では、例えば1億とか2億の単位でやるとすると、事務経費だ

けで 3000 万円とか 4000 万円かかってしまうことから、できればそうしたお金を事務経費に使うよりは直接市民の皆さんに還元をした方が良くだろうということで、PayPay で行わせていただいたところであります。

スマートフォンの普及率も国のデータでは 85%ぐらいは普及していると言われておりますが、当然市民でもスマートフォンを持っていない方がいらっしゃるわけで、それらの方に対してどうなのか、あるいは持っていても今ご指摘のように、何らかの障がいがあって使いづらいというような方もいらっしゃるのも事実であります。そういった方については、これまでも丁寧に対応をとらせていただいたつもりではございますが、PayPay に限らず、スマートフォンを活用した行政サービスというのが様々ありますので、スマートフォンの勉強会のようなものを開いて、市民の皆さんにスマートフォンのご利用に向けた啓発・促進を行っていきたいと考えております。

先ほど申し上げたようなワクチン接種の予約も圧倒的にインターネットでの予約申し込みが主流になっています。そのほとんどの方がスマートフォンを利用されておりますので、そういったことも踏まえて、これからのデジタル社会の中で、スマートフォンはやはり年齢や障がいの有無に関わらず、ある種のマストアイテムになってくる傾向がますます強まりますので、そこについては市民の皆さんにご利用いただく場合、どういうふうに操作をするのかということ、定期的に学習する機会を、我々としても作っていくように努めていきたいと思っております。特に障がいをお持ちの方がご不便を感じないように努めていきたいと思っております。



◆通学路の変更について

(諏訪町 S さん)

二中に行く通学路につきまして朝方に混んでいて、非常にあぶないと思っています。場所は徳蔵寺の先の踏切を渡りましてその後ずっと行きますと久米川辻に出ます。久米川辻から、そのまま直進して左に曲がって、二中の方に行くというこの通学路ですけれども、諏訪町の1丁目2丁目のほとんどの生徒が二中に通う時に通っていると思いますが、このあいだ一緒に歩いてみたのですが、中学生は大きなカバンを背負って歩いており、歩道には自転車がたまに通り、朝の通勤時のため道路は車で混んでいるため、非常に危険な状態です。

以前、久米川町で行われたタウンミーティングの時に事務局にお話ししたのですが、調べた時間が日中だったようで、「大して混んでないよ」というお話をいただいて、ちょっと困ってしまいました。本当に困っているのはやはり朝の通学時ということをご認識いただきたいと思います。歩道や道路を広げるというのはお金も時間もかかることですので、一つ代案を考えていたのですが、徳蔵寺の先の踏切を渡り、その後、熊野神社に入る入り口の方に石屋さんがあってそこに熊野神社に入る道がありますけれども、そこを行って熊野神社の入り口まで行きますと、府中街道に進む道があります。ここはほとんど車の通りもありませんし、普段は空いています。そこを行くと元ガソリンスタンドのあったところのY字の交差点に出ますけれども、そこの信号機のある横断歩道を渡って、左に少し行きますと二中の正門が見えてくるという通路があります。通学路をこの形に変更してもらう案はどうなのかなと思います。そうしますと特別に道路工事がどうということではなくて標識程度で周知徹底すれば済む話かと思います。

ぜひ本当に混んでいる時間帯を見ていただき、代案をご検討いただけないかということでご提案させていただきました。

◎ 市長回答 ◎

通学路の安全対策につきましては、先般、千葉県八街市で痛ましい事故が発生をしております。国からも通学路の安全点検を再度するという通知が全国の市町村に来ております。市としましても、警察等と連携をしながら各学校の通学路の安全点検を今後行っていく予定でございます。

今お話をいただいた箇所等についても現状どうなのか、もう一度確認をするように教育委員会の方には話をさせていただきたいと思います。今いただいたご提案は、確かに石材屋さんから北の方に下って熊野公園の方に行って、それから熊野公園のところから府中街道に上がっていくというのは、その部分については非常に安全かなと思います。ただ、二中の正門に続く通路には歩道がないんですよ。

いずれにしても通学路については教育委員会や各学校で協議して設定をしておりますので、私の権限で勝手に変えるわけにはいきませんので、そういうご提案が今日あったということはお話しして、全体としては先ほど申し上げたように、八街市での事故を受けて、通学路の安全確認をこれから行いつつ、対策が講じられるところについては講じていくということにな

ります。ただ全体的に当市の場合、残念ながら道路の幅員が狭くて、歩道等の設置ができない箇所が多いため、今お話しありましたように、歩道を広げるといっても道路全体を広げられないと歩道自体も広げられないことから、なかなか抜本的な対策を講じるのに非常に苦慮しているのが実態でございます。

そういう意味では、今いただいたような、こちらのルートを通った方が安全なのではないかというご提案を含めて、これから各学校での通学路の安全対策についてはぜひ強化できるように努めてまいりたいと考えております。

◎ 学務課より ◎

第二中学校の指定通学路を確認させていただいたところ、ご提案にある石材店の東側道路を通るルートも通学路に指定されており、生徒は選択することができます。しかしながら、その後、ご提案の熊野神社の南側道路を東に進むルートと熊野神社の中を通り抜け北側道路を東に進むルートが考えられますが、どちらも府中街道方面に出た際に歩道の幅員が十分ではない箇所が存在します。

対しまして、現状皆様が多く通っている久米川辻を東に少し進むルートは、北上する部分からスクールゾーンになっており、その後の区間は安全性が高いものと思われれます。

どのルートを選択しても一長一短がございますが、学校にも適宜情報を提供し協議してまいります。

◆防災行政無線を利用したコロナに関する注意喚起について①

(野口町 E さん)

新型コロナウイルスの感染状況が危機的な状況なので、防災行政無線で以下の内容を流してほしいです。「不要不急の外出をしないでください。家庭でも職場でも新型コロナウイルスが広まっておりますので感染症対策を徹底して行ってください。食事の時は黙って食べてください」といった内容を、毎日昼休みなどに1回流して欲しいです。

清瀬市、東久留米市、東大和市、所沢市では流しており、前例がありますので、ぜひ東村山市でも対応していただきたいです。

防災防犯課や健康増進課には要望したのですが、検討中ということでやってくれないので、ぜひとも速やかに行ってください。

◎ 市長回答 ◎

現在、東京都内では感染爆発的な状況になっておりまして、東村山市でも6月、7月、8月と月を追うごとに感染者が1週間単位で倍増するような勢いで増えておりますので、市としても何らかの呼びかけ、対応、対策を講じていかなければならない時期だというふうに捉えております。

今お話いただいたような防災行政無線を使って行っている例は、周辺市で行われていることについては私自身も承知いたしております。

ただ、防災行政無線を使うと、それに伴って市民の皆さまからお問い合わせや苦情をいただくことが非常に多く、その対応だけで追われてしまうくらいがあって、私どもとしては防

防災行政無線で一定の情報をお流しするというのは、相当な覚悟を持って今までも行ってきたところでございます。そうした市民の皆さまからのお問い合わせや苦情等の対応について十分な体制を組んでから、やる場合についてはやっていく必要があるかなと思いますが、いずれにしてもこれだけかなりのまん延状況が続いておりますので、市民の皆さんに早急に注意喚起を促す手立てを講じていけるように、今いただいたご意見も踏まえて検討させていただきたいと考えております。

◎ 健康増進課より ◎

防災行政無線でのアナウンスについては、要望がある一方、苦情も寄せられている現状です。

このことから、新型コロナウイルスに関する注意喚起については市報もしくは市ホームページにて定期的に注意喚起を行ってまいりますが、緊急にお知らせする内容であれば、防災行政無線の利用についても検討してまいります。

◆防災行政無線を利用したコロナに関する注意喚起について②

(野口町 Uさん)

先ほど所沢市や清瀬市では、新型コロナウイルス感染症対策について防災行政無線で放送があるということについて、東村山市では喧々諤々と今議論しているということでありましたが、どのようなことを議論しているのかお聞きしたいです。また、所沢市や清瀬市がどのような整理を行い対応しているのか。東村山市がどのように対応しているのかという部分がうまく理解できなかったのでお聞きできますでしょうか。

◎ 市長回答 ◎

今資料を持っていないのですが、防災行政無線については、市内 60 数カ所に子局と言われるスピーカーが付いています。これは 5、6 年ほど前だったと思いますが、東日本大震災を受けて、もう少し音が聞き取りやすくなることも含めて、まずデジタル化してそれから向き等も再度調整をしました。とはいえ、何を言っているかよくわからないという声を相変わらずいただいております、1 回放送を流すと市民の方から今何を放送したのかというお問い合わせをいただくケースがございます。

これは平時と比べることはできないのですが、東日本大震災直後の計画停電の放送をしたときには一度に市役所に 600 件を超える電話が来たことがありまして、それ以来本市では防災行政無線を流すときには必ず一定の電話問い合わせに対応できる体制をとってから流すということが庁内で一定のルールとされており、体制が取れない場合については、緊急性がなければ防災行政無線では流さないというような対応を基本的には取らせていただいております。

他市の状況は私どもとしては把握していないので、その辺をどう対応されているのか正直わかりません。今回のコロナの関係については、ゴミの収集事業者さんが収集車の放送機器を使っていたら一時市民の皆さんに注意喚起もしていただいた時期もありますが、意外にも市民の方からは、うるさいというお声をかなりいただいたこともあって、今は中止をし

ております。

ただ早期にお伝えをしなければならぬ情報については、防災行政無線を有効に活用していかねばならないというふうに考えています。当市においても認知症等で所在不明になってしまう方がたまにいらっしゃいますが、そういう方のことについては、防災行政無線でお知らせを放送することもあります。

現在、庁内はワクチン対応に追われており、電話対応の人員を確保できないとかえって混乱する可能性もありますが、その辺りを考慮しながら、防災行政無線で改めてコロナについての注意喚起をするかどうかについては庁内で検討させていただき、今後皆さんに適宜適切に情報伝達できるような仕組みを考えていきたいと考えております。

ただ必要な情報については市報や、あるいは市のホームページ、あるいはSNS等で、市民の皆さんには情報提供させていただいているつもりです。また、雨量が多く見込まれる場合や、避難指示等を出させていただくなど、切迫した状況があるようなときには、防災行政無線にやはり頼らざるを得ないと考えております。

◆障がい者に対してスマートフォンの操作講習会をやってほしい

◆スマートフォンだけでなく、別の決済できる機械を作ってほしい

(萩山町 T さん)

スマートフォンが悪いと思っています。スマートフォンは音声利用をしているとバージョンアップをする度に操作が変わってしまいます。こういうのをどうかしてくれないと、どうしてもできなくなってしまいます。それをカバーするために市にそういう課を作って対応していただいてもいいのではないかと思います。

なにしろ、健常者であってもそうだと思いますが、バージョンアップする度に操作が変わるのはおかしいと思います。

お金を払うのにスマートフォンを活用してPayPayで払うのではなくて、別の機械を作ってそれで支払えるようにするのも必要だと思います。

◎ 市長回答 ◎

どのようにお答えすればいいのか、即答するのが難しく、一基礎自治体レベルでお答えできる話ではないので、どう市として取り組めばいいのかというのを今お話しさせていただいて私も考えがまとまっておりません。

一昨年に東京都の副知事に宮坂さんという方が就任をしまして、この方は元日本のヤフーの社長でした。

東京都のいわゆるデジタル化、今の流行り言葉で言えばDX（デジタルトランスフォーメーション）を進めるということで、小池都知事が招聘して、宮坂副知事さんが誕生して、今東京都のDXの戦略、それからそれぞれのいろいろな企業等の対応はこの方が中心になってやっているというふうに伺っています。

宮坂副知事の講演を一度東京都市長会でしたことがあって、今後こういう形で日本のDXが進んでいけると、あるいは東京都としてはこういう形でDXを進めていきたいという

お話があった中で、いわゆるデジタルデバイドと言われるような方々に対してどういう取り組みをするか、特に障がいのある方に対してどういう取り組みをするかということについて、ある市長が質問したのですが、その時宮坂さんがおっしゃっていたのは、「これまでデジタルの世界ですっと仕事をしてきた人間としては、デジタルこそがやはり障がいのハンディを解消する一つの大きなツールになる」というようなことをおっしゃっていたことが非常に印象に残っています。

確かに視覚に障がいがある方だとスマートフォンのような、すべすべしたものにタッチをしていくというと、なかなか操作が難しいのは事実だと思いますし、我々ですらバージョンアップをしたり、機種を買い換えてしまうと、最初は操作しづらいということは多々あることです。今後そういったことをどう解消していくのかということについて、なかなか一自治体ではできないことですが、スマートフォンが今、社会生活上、ある種マストアイテム化されつつある中で障がいがある方が取り残されないようにするため、具体的な方策について企業を含めて国全体で考えていただくようなことを進めていくことが必要なのではないかと考えています。

この間、google のコマーシャルで見たのですが、google の技術者、従業員の方でやはり視覚障がいの方がいらっやって、その方が中心になって開発されたのだと思いますが、それは位置情報を取り込んで、その方がこれから向かおうとするところを、カメラ機能を使って障害物があるとかないとかそういうことを持ち主の方に、スマートフォンから音声で発信をするというようなアプリケーションでした。わずかなコマーシャルの放送時間だったので本当に大丈夫かどうかわかりませんが、こういうものを活用すると仮にガイドヘルパーさんがいらっやらないようなときでも、ある程度ご自身一人で安心して街の中を歩くことができるような感じがいたしましたので、一方でそういう技術革新も今後進んでくると思います。やはり以前にも直接お目にかかっていただきましたけれども、スマートフォンの開発に携わっている方やベンダーの方、あるいは google のような会社の方とかに直接障がい者の皆さんの声を聞いていただくことがまずは重要ではないかというふうに考えていますので、スマートフォンのベンダーの方等に来ていただいて視覚障がい者の方がこんなことでお困りになっているということを直接聞いていただくような場を設けていただければ、はたらきかけていきたいなと、そのように思っております。

【市長まとめ】

本日は長時間にわたり、お付き合いいただきましてありがとうございました。今日は前川流域にお住まいの方々から、大変切実な長年にわたってのご苦勞のお話しも直接承ることができましたので、改めてしっかり取り組んでいかなければならないなと思った次第でございますし、また健常者にはわからない障がい者の方のお悩み、苦しみというか、大変さということについても今日またお話をいただけたかなと思っております。

やはり直接こうして対面で、市民の皆さんの声を聞かせていただくというのは私にとっても非常に貴重な場で、こうした市民の皆さんの日々の生活、日々のお困りごとにきちんと向き合いながら今後も市政運営にしっかり取り組んでまいりたいと改めて思った次第でございます。

冒頭申し上げたようにコロナの感染状況が非常に市内でも拡大が続いておりますので、ワクチンを打った方も打ってない方も、今後もしっかり感染対策をしていただきながら、健康でお暮らしいただきますようお願いして、お礼のご挨拶に代えさせていただきたいと思えます。本日はありがとうございました。



市民と市長の対話集会
第143回
タウンミーティング記録集

発行 令和3年10月
東村山市 市民部 市民協働課
東京都東村山市本町1丁目2番地3
TEL 042(393)5111